

共生

奈良県生協連

2024年10月

NO.134



第35期臨時総会



機能性表示食品を改めて考える
講師：森田 満樹氏



若者応援プロジェクト奈良2024 in 奈良女子大学

もくじ

第35期臨時総会.....	1	近畿地区府県連・行政合同会議.....	6
退任・就任のご挨拶.....	2	奈良防災プラットフォーム連絡会.....	7
機能性表示食品を改めて考える.....	3	関西消費者団体連絡懇談会.....	8
若者応援プロジェクト奈良2024 in 奈良女子大学...	4	全国障害者問題研究会第58回全国大会 奈良2024...	9
市町村訪問.....	5	エイブル・アート.....	10

奈良県生活協同組合連合会 第35期臨時総会開催

9月19日奈良県コンベンションセンター会議室107にて第35期臨時総会を開催しました。奈良県生協連監事に就任いただいていた奈良県労働者共済生活協同組合 稲津和之さんが退任され、奈良県生協連の監事が欠員となりました。それに伴い新たに監事を選任するため臨時総会が開催されました。稲津さんは2012年10月より監事として県連活動の推進に大きく貢献されました。

当日は代議員27名に対して、会場出席3名 書面議決23名 合計26名での開催となりました。新たに奈良県労働者共済生活協同組合 岩崎正孝さんが賛成多数で監事に選任されました。



議長 上市佳織さん

議案

第1号議案 役員補充専任の件

退任・就任のご挨拶

奈良県生協連監事に長年就任いただいていた奈良県労働者共済生活協同組合の稲津和之さんが退任されました。ありがとうございました。新たに奈良県労働者共済生活協同組合 岩崎正孝さん(シャープ労働組合)が監事に就任いただくことになりました。よろしくお願いたします。

また、奈良県生協連理事に2019年から5年就任していただいていた奈良工業高等専門学校生活協同組合の橋本健太さんの異動に伴い、理事退任の申し出がありました。橋本さんは学生の生協との関りに大きく貢献されました。異動先の大学生協でもご奮闘されています。ありがとうございました。



退任ご挨拶

奈良県労働者共済生活協同組合 稲津 和之さん

このたび奈良県生協連の監事を退任することとなりました。2012年から監事に就任して12年の間、皆様に支えられ大役を務めることが出来たことに改めて感謝いたします。

ありがとうございました。

振り返れば、就任当時に県連理事の立場で出席していた森さん(現県連会長)から「前任者が短かったので、長くやってくださいね。」と言われたことを記憶しています。その言葉を守り続けた結果、いつの間にか県連では古株になっていることに気づきました。(今回の退任は組織事情であり、自発的な退任では無いことをお知らせしておきます)

私の県連での活動としては、多少、長くなりがちな理事会に出席し、監事としての視点で発言することが主ですが、多岐にわたる活動報告などを聞いていると、これまで自分が経験していない分野の内容が多く、それに驚くとともに自分の知見が広がっていく感がありました。また、私は奈良県生協連しか経験していませんが、大学生協を含め会員生協同士や県連との双方向コミュニケーションが十分に図れていて、私見ではありますが、お互いがお互いを支え合っている意識が高い組織だと感じていました。改めて、これまで貴重な経験をさせていただいた奈良県生協連の皆様へ感謝いたします。

結びに奈良県生協連ならびに会員生協のますますのご発展と皆様のご健勝をご祈念申しあげ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



退任ご挨拶

奈良県工業高等専門学校生活協同組合 橋本 健太さん

この度5年間務めてきました奈良県生協連理事を退任することになりました。2019年からの5年間は県連で沢山の事を学ぶ機会を頂きました。特に大学生協で働いているだけでは分からない、多様な生活協同組合の形や取り組みについて学ぶことが出来ましたのは、私の生協人生において非常に意義深いことでした。

県連での思い出は沢山ありますが、特に印象に残っているのは食堂で実施した「100円カレー祭」です。

2020年から始まる新型コロナウイルスによる影響で大学生協の経営は深刻な影響を受けました。そんな苦しい時に温かい支援の手を差し伸べてくれたのも県連でした。ならコープから頂いた援助金を利用して行った「100円カレー祭」では連日多くの学生さんに利用頂き、店内は笑顔で溢れ、嬉しそうにカレーを食べている姿が印象に残っています。

奈良の地で学ばせて頂いた沢山の事を糧にして、これからも協同組合人として、生協運動に微力ながらも貢献していきたいと思っております。

森会長をはじめ、理事・監事・事務局の皆様にはいつも奈良高専生協のこと、学生のことを気に掛けていただき、温かい言葉を掛けてくれましたことを、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

就任のご挨拶

奈良県労働者共済生活協同組合 岩崎 正孝さん



この度、監事に就任いたしました、奈良県労働者共済生活協同組合監事でシャープ労働組合（以下、シャープ労組）の岩崎正孝と申します。奈良県生活協同組合連合会の「共生」という言葉の浸透、社会の実現に向けて、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

私の所属するシャープ労組は、組合員の「団結」をもとに経済的、社会的地位の向上を目的とした組織であり、日々の活動を行っています。この「団結」という言葉は私自身、「共生」に通じる部分が非常に大きいと感じています。特に今年に入ってから、日本各地で地震や台風といった自然災害による大きな被害が世間をにぎわせており、団結によりお互いに垣根のない共生社会の実現が強く求められているものと感じています。

これまではシャープ労組の役員として、組合員のためにと考えながら活動を行ってきましたが、これからは生活協同組合の役員として、「社会から求められる活動とは何なのか？」という視点を日々持ち続けていきたいと思えます。

これまでに先輩方が築き上げてきた生活協同組合という組織の発展に、少しでも貢献していけるよう、皆さまと協力しながら活動していきますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

会員生協理事長 交流会



9月19日奈良市内の中華料理店で開催しました。前年のふりかえりから、「違った場所や交流のしかたであれば、さらに交流・懇親が深まるのではないか」と意見があり、場所と交流方法を変えての開催となりました。

理事長交流会は大学生協4、購買生協3、医療福祉生協1、労働者共済生協1の計9つの会員生協理事長と生協連役員が毎年1回親交を深めるため開催しています。

最初に森宏之生協連会長から挨拶のあと末吉副会長から乾杯のご発声をいただきました。各会員生協理事長や奈良県生協連理事、監事、事務局からの近況報告があり、和やかな交流会になりました。IYC2025国際協同組合年にむけて、さらに連携・協力を強めることを確認しました。



2024年度食の安全懇談学習会 「機能性表示食品を改めて考える」

9月17日、学習会「機能性表示食品を改めて考える」を南都銀行大宮支店4階の南都商事新大宮セミナールームで開催し、奈良県薬務・衛生課の方や会員生協の理事や職員、事務局を含め38名が参加されました。

多くの国民が少しでも健康になればと気軽に口にしてしている機能性表示食品ですが、今年3月小林製薬の「紅麹」の成分が含まれた健康食品をめぐって、摂取したあと腎臓の病気を発症して大きな健康被害が発生しました。関連商品の回収が進められ、その後死亡者の報告も出され全国で健康被害の訴えが相次ぎ、機能性表示食品の制度が見直されました。「機能性表示食品」という新しい制度ができたのは2015年4月。スタート時から安全性に問題がある製品が世に出るのではないかと複数の専門家が警告を出されていたそうです。そのお一人である森田満樹さん（一般社団法人 Food Communication Compass）を講師にお招きし、改めて消費者から見た機能性表示食品について、定義と基礎知識、トクホとの違い、機能性や安全性の根拠など、科学的な知見から全体像と課題を学びました。



講師：森田 満樹さん

森田満樹さんの講演

2024年3月小林製薬の紅麹サプリメントで死亡者も出るなど重大な健康被害が多数報告され、製品が機能性表示食品であったことから検討会が開かれ、制度が以下の通り大きく見直されました。

- ① 健康被害情報の義務化を規定する。違反した場合は食品衛生法に基づき営業の禁止・停止の行政措置が可能になった。
- ② サプリメント形状の加工食品の製造工程管理についてGMP（適正製造規範）を義務化する。
- ③ 容器包装上の安全性に関する義務表示事項の表示の方法や方式の改善が必要である。

機能性表示食品やトクホを含む「保健機能食品」とその他の健康食品の関係など多くの消費者が制度を理解していない現状にあるので、改めてお話がありました。

健康になるためには、バランスよく食べることが重要であり、食の情報と上手に付き合うことが大切です。

過剰な情報や一面的な情報に惑わされないように気を付けてほしいこと、食べ物の現実的な危険性がどの程度かよく考えて行動してほしい。

アンケートから

小林製薬単体の問題、制度の問題、それらを防ぐための両省庁の法改正ですが、やはり企業のモラルが問われます。消費者はバランスよく食べる、食物の栄養を学ぶ、易きに流れない、そして疑問は声に出す。これに尽きると思いました。

今日の講演は身の回りに起きている事でとても勉強になりました。パッケージ、コマーシャルどうのみにしていました。サプリメントは飲んでいたので、もう一度見なおして考えます。コマーシャルなど過大表示も国は見直してほしいと思いました。

● 健康食品を利用する際に、注意すべき点 ●

- ① 「健康食品」は医薬品ではなく、品質の管理は製造者任せであること。
- ② 誰かにとって良い「健康食品」があなたにとっても良いとは限らないこと。
- ③ 食品であっても安全とは限らないこと。
- ④ 多量に摂ると健康を害するリスクが高まること。
- ⑤ ビタミン・ミネラルをサプリで取ると過剰摂取のリスクがあること。
- ⑥ 食べて痩せる食品は栄養状態を低下させる有害物であること。

（食品安全委員会からのアピール2015年12月）

若者応援プロジェクト奈良2024

奈良女子大学生協



準備に協力して下さった学生さん

配布の国際交流プラザ



7月26日奈良女子大学生協横の国際交流プラザでフードパントリーを開催しました。今回は生活クラブ生協(奈良)さんの組合員さんから消費財(食品)の寄付をいただき、それに合わせて食品を準備しました。

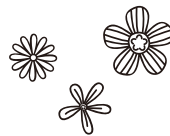
簡単に調理できる物のほかに、ならコープさんからフリルレタス、ミニトマトや小玉スイカやバナナ、スイートコーンなどもいただき学生さんたちは「なかなか買えないのでうれしい」と喜んでいました。袋づめなどの準備時間が少なく心配していましたが、事前に準備をお手伝いいただける学生さんを募集したところ11名の学生さんの応募がありました。箱の開封や袋詰めをお手伝いいただき早く準備を終わることができました。

物価高と円安が長期間継続しており、学生さんの生活への影響も大きいのではないかと、今回は多くの学生さんにお配りできるように100名ずつ2回に分けて整理券を配布しました。農産品は少し余裕があったのでより多くの方に受け取ってもらえました。



学生アンケートから

- ・とても助かります。テスト前は勉強をするために料理は出来ないなと思っていたので、嬉しいです。特に普段は買えないスイカを買えたことがよかったです。
- ・保存食などの詰め合わせに加え、トウモロコシやバナナなどの野菜・果物もあり、種類豊富でした。ちょうど浅めのフライパンが無かったので、今回の食糧支援で頂けて非常に助かりました。大切に使用させていただきます。
- ・一人暮らしで買い物行かずに、物価の高さを実感していたので本当にありがたかったです。最近バナナ食べたかったけど高くて買うのを諦めていたのですごく嬉しいです。本当に助かります、ありがとうございます！
- ・一人暮らしでできるだけ食費は抑えたいと思い、食事の量を減らそうとするときもあるのでとてもありがたい取り組みでした。



生活クラブ生協(奈良)さん 「おふくわけ」の取り組み



寄り添う気持ちも一緒に届ける「おふくわけ」活動として、生活クラブ生協(奈良)さんの組合員さんが「若者応援プロジェクト奈良」への支援として消費財セット(パックご飯・ツナ缶・フリーズドライスープ)とお米を購入しその食品をいただくことになりました。

消費財セット…… 137個
お米…………… 112kg



市町村首長訪問

2024年度介護保険制度改定を機に、安心して暮らし続けられる地域社会の実現にむけて奈良県生協連森会長 奥西専務理事は、社会福祉法人協同福祉会、ならコープと連携し、昨年8月以降に39全市町村の首長訪問をすすめています。

8月2日斑鳩町中西和夫町長、8月5日上牧町今中富夫町長、安堵町西本安博町長、8月7日王寺町平井康之町長を訪問し全39市町村のうち36市町村首長との懇談を終えました。

各市町村では、高齢者への買い物支援やゴミ出し支援が求められています。また、防災意識を高め、スムーズな避難ができるかどうか重要な課題となっています。しかし、介護支援専門職(ケアマネジャー)が不足しており、国の援助施策も十分ではない状況です。さらに、少子高齢化や認知症の増加、家族による養育が困難な子ども、障がい者福祉では適切な担い手や受け皿を確保することなどが共通の課題となっています。

これらの課題を解決するための1つに居場所づくりが重要です。また、介護分野では人的資源やサービスに限界があるため、役割分担をしながら専門職を増やす必要があります。加えて、増え続ける「空き家」の活用についても検討が求められ、今後も解決に向けてできることを探っていきます。



斑鳩町長



上牧町長



安堵町長



王寺町長

赤い羽根共同募金運動が始まります (10月1日～3月31日)

9月19日奈良県共同募金会常務理事・事務局長 金剛真紀さんが奈良県生協連の理事会に募金の呼びかけにこられました。

赤い羽根共同募金運動は、毎年全国一斉に行われており、「健康でいきいき暮らし続けられる地域づくり」「生きづらさを抱える子ども・若者とその家族を支えます」「災害ボランティア活動・防災活動を支えます」「誰をも受け入れ、誰もが参加できる地域づくりを支えます」「生活に困難を抱える人たちを支えます」の5本柱で支える人を支える募金です。都道府県で集められた募金は、その都道府県内の福祉活動に役立てられます。奈良県では1月から3月の期間は、児童、子育て中の親、高齢者、障がい者等の「居場所づくり」「孤立をなくす」といった地域課題を解決するために活動している団体と協働して募金運動を行う「奈良県び～すぺ～すプロジェクト」を行っています。つながりをたやさず支えあう社会づくりにご協力をお願いします。

社会福祉法人 奈良県共同募金会

<http://www.nara-akaihane.com>

寄付金振込先：ゆうちょ銀行(口座記号番号) 00980-6-300

(加入者名) 社会福祉法人奈良県共同募金会



第35回近畿地区府県連・行政合同会議



会場の様子

8月21日(水)第35回近畿地区府県連・行政合同会議が「つながる力で安心して暮らし続けられる地域社会づくりをめざして」をテーマに兵庫県ラッセホールで開催されました。この会議は、地域住民の安全・安心な暮らしをささえるために、生協と行政のパートナーシップを強め、近畿地区各府県の行政担当と府県生協連の役職員が意見交流を行いながら、健全な生協運動の発展と相互理解を一層深める機会とするために毎年開催しています。今年度奈良県からは県民暮らし課 澤田真樹主査・保田万理主査に出席いただきました。この会議は近畿2府4県と福井県を加えた7府県の生協連合会で構成する「近畿地区生協府県連協議会」主催で開催されました。

はじめに、主催者を代表して兵庫県生協連(近畿地区生協府県連協議会代表) 岩山利久会長理事、開催地行政から兵庫県県民生活部 小谷寛和次長より開催にあたってご挨拶がありました。

その後、厚生労働省社会・援護局 地域福祉課 消費生活協同組合業務室 小野博史室長よりご挨拶のあと、日本生協連渉外広報本部 松本圭司執行役員本部長より「持続可能な社会の実現を目指した全国の生協の社会的取り組み」と題して、全国生協の事業概要、全国生協の事業・活動を通じた社会的取り組み、協同組合間連携事例などについて報告がありました。

特別報告として、「持続可能な食と農業に向けて、消費者ができること～日本の食料安全保障と生協の果たす役割～」東京大学大学院農学生命科学研究科 鈴木宣弘教授から報告があり、世界の情勢や気候変動を踏まえて地産地消することの重要性が強調されました。また、この間の米の不足が社会的問題となり消費者の間で不安が広がっていることもあり、この課題が重要であると再確認されました。



鈴木宣弘教授

特別講演の後には、各府県の特長的な取り組みが紹介されました。兵庫県から兵庫県県民生活部県民躍動課消費政策班 三木景介氏「大学生協との連携による安全・安心な地域社会づくり」、大阪府生協連・会員生協である近畿大学学生委員会 副委員長 佐藤風花氏「生協学生委員会の活動」、和歌山県生協連・会員生協 わかやま市民生活協同組合 常勤理事 大塚太加守氏「つながり、ひろがる、豊かなくらしへ～持続可能な地域社会をめざして(古民家プラットフォーム)」消費者支援機構関西 理事 事務局長 小林紀久子氏「特定非営利活動法人消費者支援機構関西(KC's)活動報告」がありました。内容についての質問や意見交換が行われました。



令和
6年度

奈良防災プラットフォーム連絡会 の取り組み



7月30日奈良防災プラットフォーム連絡会が20団体(26団体中)28人の参加により開催されました。奈良県において大規模災害(地震)を想定した多様な主体が連携・協働できる体制整備について①災害中間支援組織の検討 ②被災者支援コーディネーター育成 ③支援団体・企業の掘り起こしについて進めていくことが確認されました。

これらを受けて、8月16日奈良防災プラットフォーム連絡会による「令和6年度県域災害中間支援組織の拡充と機能強化を考える検討会」がオンラインで開催され参加しました。参画団体である奈良県社協、奈良県県民くらし課、奈良県防災統括室、日本赤十字社、レスキューアシスト、JVOAD、奈良県生協連によって率直な意見交換が行われ、災害時に連携するため①県内支援組織の掘り起こしのため、県内NPO・企業を対象にしたアンケート実施とその内容②「災害時における多様な主体間の連携を考えるフォーラム開催についてなどが話し合われました。

また、8月24日奈良県社協・奈良県内災害ボランティア研修・報告会が開催され参加しました。災害ボランティアに参加もしくは関心のある方約40人が参加し、能登半島地震の支援についてJVOAD明城事務局長、災害救援レスキューア

シスト中島代表理事、葛城市防災士会から報告がありました。参加者によるワークショップでは、能登半島地震での災害ボランティア活動を通じての気づきについてグループで討議を通じて、共通の認識を深めることができました。被災者の困難に真摯に耳を傾け、寄り添った支援の重要性や、そのために必要な専門的な知識と経験の大切さを学びました。



奈良防災プラットフォーム連絡会

//// (2006年2月結成) ///

災害救援及び復興支援活動における多様な団体・機関との連携並びに防災に向けた地域まちづくりへの普及・啓発活動をはかる目的で、県内23の様々な分野の団体が集い発足しました。(2024年4月現在26団体)災害発生時には、被災地からの要請に基づき、ボランティアな領域で対応可能な災害救援、及び復興支援を行い、必要な社会資源の相互活用、情報共有等に取り組んでいます。

また、平時には防災・減災に関する広報、及び普及・啓発をはかり、さらに定例会・研修会などを開催して、災害発生時にスムーズな対応ができるように、団体同士の「連携・共働体制の構築」を進めています。

JVOAD(ジェイボアード)とは、認定NPO法人である「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク」の略で、災害時の被災者支援を目的とした組織です。東日本大震災での経験を踏まえて2013年に準備会を立ち上げ、2016年にNPO法人として認証を受け、その後認定NPO法人となりました。



あなたの声をエネルギー「意見箱」に

第7次エネルギー基本計画への市民の意見

エネルギー基本計画は、日本のエネルギー政策の方向性を示し、エネルギーに関するさまざまな政策の土台となっています。

2024年度中の閣議決定をめざす第7次計画策定に向けて、経済産業省の有識者会議による議論が始まっています。計画の柱となるのは、2040年度の電源構成の目標決め。温室効果ガス削減目標と電力の安定供給の両立が課題となる中で、AI(人工知能)の普及やデータセンターの市場規模拡大により電力需要増も見込まれているといわれています。昨年来より政府の進める「GX2040ビジョン※」では脱炭素対策や経済成長策が検討されており、エネルギー基本計画もこれと連動した議論が進められる予定です。

※2040年を目標にした脱炭素や産業政策の道筋。GXはグリーントランスフォーメーションの略

関西消費者団体連絡懇談会では、市民の声を第7次エネルギー基本計画に反映させようと、パブリックコメントなどに意見を言うことに慣れない市民の方に向けて、研究者の意見を聞き、構成メンバーが自ら意見のサンプルを発表するイベントを以下の通り開催しました。40名(会場17名、オンライン23名)が参加しました。

- **日時** 9月24日(火) 14:00～16:00
- **参加方法** 大阪産業創造館 研修室DとZoomミーティング
- **基調報告** 「“グリーントランジション2035”で行こう！
一再エネ・省エネ投資で1.5℃目標・電気代削減を実現—」
朴勝俊(パク スンジョン) 関西学院大学教授(環境経済学)
- **構成団体メンバーから意見サンプル・プレゼンテーション**
 - ① 総論(気候危機、省エネ・再エネへの資源集中、原発・脱炭素火力の非現実性)
 - ② 原発のリスク(事故時被害の切迫性)
 - ③ 原発のリスク(廃棄物処理問題)
 - ④ 省エネ、再エネで地域振興

その後、意見箱への意見の出し方の説明があり、オンライン参加者を含め約10名の方が意見箱にその会合時に意見を提出しました。

「関西消費者団体連絡懇談会」は全大阪消費者団体連絡会が事務局となり、1972年に結成。現在以下のメンバーで構成。関西電力や大阪ガスとの定期懇談会を毎年開催しています。

- ・ 安全食品連絡会
- ・ コンシューマーズ京都
- ・ 滋賀県生活協同組合連合会
- ・ 奈良県生活協同組合連合会
- ・ 全大阪消費者団体連絡会



会場の様子

前計画では「安全を最優先し、可能な限りの原発依存度の低減」が盛り込まれていましたが、「GX2040ビジョン」では「原発の最大限の活用」が掲げられています。



基調講演の朴勝俊先生

前計画では再エネの目標比率が36～38%、原子力が20～22%。そのほか石油火力などが2%程度。水素・アンモニアによる発電が1%程度となっていました。2022年度実績では発電量全体の70%超が石炭・天然ガスの火力発電で賄われている現状。

朴先生から、「日本のエネルギー計画はこれでいいの？」と投げかけがあり、朴先生たち研究者が9月初めに発表した原子力に頼らない選択可能であるという「グリーントランジション2035」の紹介がありました。

全国障害者問題研究会 第58回全国大会 奈良2024

全国障害者問題研究会 第58回全国大会 奈良2024が大会テーマを「いざ、奈良。みんなとねがう いまと未来」として、8月3日全体会がなら100年会館で、8月4日分科会・学習講座を奈良教育大学+附属小学校を会場に開催されました。参加者は全国から障がい者を含む関係者約1,300人でボランティア約260人によって運営され、奈良県生協連は事務局が分担して支援しました。また、大会前日の8月2日には奈良教育大学・附属小学校で奈良教育大学はじめ多くの学生や地域のボランティアの協力によって準備がおこなわれました。



8月3日なら100年会館では、全国障害者問題研究会全国委員長・第58回全国大会(奈良)準備委員長である奈良教育大学越野和之副学長から開会の挨拶があり、「一人一人の不安や悩みや困りごとを語り合い聴きあい、人間としての尊厳を守る努力とその教訓について話し合い、明日への希望と取り組みのエネルギーにすること」が呼びかけられました。来賓には、奈良県知事(代読)、奈良市仲川市長から挨拶がありました。県内の福祉施設等とのつながりもできました。

基調報告

※全国障害者問題研究会HPより

① 乳幼児期をめぐる情勢と課題として

- 1) 「子どもの権利」を軸に考えよう
- 2) 言葉にならない思いに応える保育・療育を譲らない
- 3) 地域で手をつないで共同の輪を

② 学齢期をめぐる情勢と課題として

- 1) インクルーシブ教育と発達保障
- 2) 子ども、保護者、教師の悲しみ 苦しみ～笑顔あふれる学校を取り戻したい
- 3) 子どもたちの豊かな発達を保障するために～安心と信頼で満ちた放課後を

③ 成人期をめぐる情勢と課題として

- 1) 障害のない人と平等に社会参加ができる社会を
- 2) 支援者の不足は働くこと・暮らすことの破壊
- 3) 障害者支援事業そのものを揺るがす報酬制度
- 4) 過度な家族負担の解消と暮らしの場づくり

④ 研究運動の課題として

- 1) すべての人の命と暮らしが守られる社会を求めて
- 2) ひとりのねがい、みんなのねがいを基盤に、一生を通じた権利保障を求めよう
- 3) 学び、運動する輪を広げよう～職場で、地域で、全国で

特別報告として「優生保護法訴訟 最高裁勝訴判決と私たちの課題」藤原精吾さん(兵庫訴訟弁護団長・元日弁連副会長)、記念講演として「微力かもしれないが、無力ではない ～子どもたち、障害のある人たちと家族から教えてもらったこと～」池添素さん(NPO法人福祉広場理事長、元全障研副委員長)からお話がありました。

8月4日分科会が奈良教育大学+附属小学校を会場として【乳幼児期の実践】【学齢期の実践】【青年期・成人期の実践】【ライフサイクルと発達】【特別分科会】の分科会が開催され、分科会のレポート発表を基に議論が重ねられました。



「実践に魅力を感じられたので、ボランティアとして事業所に関わりたい」、また、学生ボランティアから「事業所を見学してみたい」など声が寄せられました。全障研大会を通じてそれぞれの分野を超えた学びが今後のつながりとして結びついていることを感じる大会でした。

2025年10月には「きょうされん第48回全国大会in奈良」の開催が予定されており、奈良県生協連は引き続き支援していきます。

※きょうされん…前身は共同作業所全国連絡会(略称・共作連)で、障害があっても「あたりまえに働き えられる暮らし」を実現するために、障害のある人を支援しています。

エイブル・アートSDGsプロジェクト

～障がい者福祉施設で活動するアーティストの作品展示～

近畿労働金庫から、エイブル・アートSDGsプロジェクトへ連携の提案がありました。エイブル・アート(障がい者芸術を捉え直す運動のこと)を通して障がい者と地域とのさらなるつながりづくりや、地域共生社会を目指した取り組みを進めるためならコープにつなぎ、奈良県生協連・ならコープ・たんぽぽの家・近畿労働金庫による実行委員会を立ち上げました。ならコープ職員への学習や交流を深め、秋に「ARTS in CO-OP～生活とアートの協同～」を開催することとなりました。

※【エイブル・アートSDGsプロジェクトとは】地域でSDGsの課題に向き合う取り組みを「アートの視点からエンパワメントする」ことを通して、「誰一人取り残さない」社会づくりに寄与するプロジェクトです。



○7月13日(土)ならコープ七条店職員を対象に、たんぽぽの家による学習会が開催され、エイブル・アートの取り組み経過やアーティスト(障がい者)の紹介があり趣旨への理解が進みました。

○7月27日(土)たんぽぽの家(奈良市)・みんなの家らんまん(大和郡山市)・ひまわりの家(三宅町)から、障がい者アーティスト4人を含む11人がならコープ七条店に来訪され、アート(絵)の題材とするために売り場・商品・バックヤード・職員の働きを見学しました。

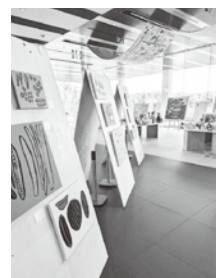
○8月21日(水)エイブル・アート実行委員会では、「ARTS in CO-OP」の実行にむけた詳細の計画について意見交換しました。



○8月27日(火)ならコープ北エリア5店舗で障がい者の作品アートをプライベート美術館として取り組むにあたり、各店舗が展示するアートを選定しました。

○近畿労働金庫が協力する9月27日放送分(収録9/25(水))FMラジオ番組「KYOTO SOCIAL WAVE!」(放送局:NPO京都コミュニティ放送「京都三条ラジオカフェ」)に、たんぽぽの家・ならコープ・奈良県生協連(奥西専務理事)が出演し、「エイブル・アートSDGsプロジェクト2024」について話しました。

ならのこども食堂展+ たんぽぽの家アーティストの「おいしい絵」



7月17日から30日まで奈良県図書情報館主催で『ならのこども食堂展+たんぽぽの家アーティストの「おいしい絵」』が開催されました。奈良こども食堂ネットワーク登録されている131か所(2024.5.15現在)のこども食堂の紹介と、たんぽぽの家で活動する障がい者アーティストの作品の協力もあり、こども食堂運営者の声が届けられました。2024年4月に開催された「奈良こども食堂ネットワーク会員総会」でNPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長湯浅誠さんが話されたお話がまとめられて掲示され、こども食堂への理解がすすむ掲示となっていました。また、たんぽぽの家アーティストの作品はどれも力強く生き生きとした作品ばかりで見ごたえのあるものでした。

※たんぽぽの家は奈良市内で「アート」と「ケア」の視点で活動する市民団体です。障害のある人がアートの活動に取り組む居場所施設を運営し、2017年から施設を開放してこども食堂を行っています。

県連日誌

7月

- 3日(水) 関西消費者団体連絡懇談会
第2回関電・大ガス質問検討会、
エイブル・アート実行委員会
- 4日(木) ピースアクションをすすめる会
- 9日(火) 憲法学習会実行委員会、国際
協同組合デー記念中央集会
- 10日(水) 田原本町高江町長懇談、奈良県
社会福祉協議会石井非常務理事
懇談、川西町小澤町長懇談
- 11日(木) 奈良防災プラットフォーム連絡会、
奈良県ジェンダートップセミナー
- 12日(金) 三宅町森田町長懇談、関西
消費者団体連絡懇談会
- 13日(土) エイブル・アート実行委員会
- 17日(水) 野迫川村吉井村長懇談
- 18日(木) 第2回理事会
- 19日(金) 近畿地区生協府県連協議会
- 22日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 24日(水) JAならけん・JA奈良中央会懇談
- 25日(木) 関西地連運営委員会・県連活動
会議、なら消費者ねっと理事会
- 26日(金) 若者応援プロジェクトフード
パントリー奈良女子大学生協

- 27日(土) エイブル・アート実行委員会、
奈良子ども食堂これまでと
これから講演会
- 30日(火) ICA近畿ブロック情報交換会、
奈良防災プラットフォーム連絡会
- 31日(水) 奈良労済生協第66回通常総代会

8月

- 2日(金) 斑鳩町中西町長懇談
- 3日(土) 災害ボランティア講座
- 3日(土)～4日(日) 全国障害者問題
研究会全国大会奈良2024
- 5日(月) 上牧町中中町長懇談、安堵
町西本町長懇談
- 7日(水) 王寺町平井町長懇談
- 8日(木) 関西消費者団体連絡懇談会
- 9日(金) 生協組合員理事交流会実
行委員会
- 10日(土) 平和みんなのつどいin六条、
ピースアクションをすすめる会
- 16日(金) 県域災害中間支援組織の拡充
と機能強化を考える検討会
- 21日(水) エイブル・アート実行委員会、
近畿地区生協・行政合同会議
- 22日(木) なら消費者ねっと理事会
- 22日(木)～23日(金) 日本生協連来訪
(新井副会長・二村常務)

9月

- 6日(金) 関西消費者団体連絡懇談会
- 9日(月) 日本労働者協同組合(ワー
カーズ)連合会来訪
- 10日(火) 憲法学習会実行委員会
- 11日(水) 日本生協連・食の安全学習会
- 13日(金) ピースアクションをすすめる会、
きょうされん全国大会実行委員会
- 17日(火) 奈良防災プラットフォーム世話人会、
県連主催・機能性表示食品学習会
- 18日(水) エイブル・アート実行委員会
- 19日(木) 第3回理事会、第35期臨時総会、
会員生協理事長交流会
- 20日(金)～21日(土) 全国県連活動交流会
- 21日(土) 奈良県のヒバクシャの声編
集委員会
- 23日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 24日(火) 関西消費者団体連絡懇談会学習会
- 26日(木) 関西地連運営委員会・県連活動
会議、なら消費者ねっと理事会
- 27日(金) 2024全国生協D&Iジェンダー
平等トップセミナー

お知らせ

第34回奈良県生協大会 IYC2025協同組合の強みを生かし地域社会に貢献する(仮)

基調講演 杉本 貴志 関西大学商学部教授 日 時 2025年1月18日(土) 13:30～16:00

場 所 奈良県コンベンションセンター204号(奈良市三条大路1丁目691-1)

参加対象 会員生協の組合員及び役員 自治体職員 諸団体 県民等

定 員 200名 参加費 無料

申し込み 奈良県生活協同組合連合会 Tel:0742-34-3535(月～金10時から17時)



編集後記

「なじみのある地域で、いつまでもずっと暮らしたくしたい」利用者に寄り添い「10の基本ケア」を通じて実践。協同福祉会がここに至られた背景、教訓、思い、地域密着、在宅、つながりづくり：学びは深い。(武)

今年の夏はかつて経験したことがない暑さだった。そして、パリ五輪も熱い熱い日々だった。「努力に勝るものはない」という言葉が心に残った。私たちの日常も同じだと感じた。(和)

9月初めの夕方、平城宮跡に「ツバメのねぐら入り」を見に行きました。日没頃たくさんのツバメたちが一斉に草むらに空から降ってきます。壮大なショーを見るようで感動!(順)

今月開催された「機能性表示食品の学習会」に参加し、自身の暮らしを振り返りかえってみると、なんと摂取サブリの多いことか：ざっと計算すると一日8種類!!更に疲労度によって栄養ドリンク等でドーピング?を行う始末：これってやっぱり騙されていますか。(豊)

「危険な暑さです。外出は控えましょう」と毎日聞いているうちに、外出は車でドアtoドアに：久しぶりに自宅から電車で県連まで行ったら、翌日筋肉痛になりました。あかん!(佳)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>